

令和3年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成
自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）
健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）
＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が、教職員が、保護者が、地域の人々が、誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

- (1) 子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校
- (2) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校
- (3) 教職員が専門性を発揮し、チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校
- (4) 児童・保護者・地域 との信頼 関係を築き、家庭や地域の教育力を生かす学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）
- (2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- (3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- (4) 道德教育の充実（豊かな心と道德的実践力の育成をめざす）
- (5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実
- (6) ○きまりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

若松原地域学校園教育ビジョン「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・チーム五代…全教職員が互いに連携、支え合い、チーム力を高めながら活気ある学校づくりを推進
- ・特色ある学校づくり…地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進
- ・地域とともにある学校づくり…地域協議会と一体となり地域とともにある学校づくりを推進

【 学 習 指 導 】

基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し、自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

- ・学び合う（伝える・まとめる・振り返る）力の向上…自ら考え、分かりやすく表現できるようにするための「宇都宮モデル」の活用等、授業の進め方の工夫
- 基礎・基本定着…基礎・基本定着のための「宇都宮モデル」の活用と家庭学習の習慣化
- ・授業改善…よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善
- ・個に応じた指導、支援の推進…一人一人に応じたきめ細やかな指導（少人数指導・かがやきルームとの連携含む）の継続による着実な知識・技能の習得

【 児 童 生 徒 指 導 】

一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。（帰属意識の高い学級づくり）

- ・自己有用感・自己肯定感の高揚…自己有用感や自己肯定感を高めるための認め励ます指導の推進
- あいさつ促進…進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の促進
- いじめゼロ推進…すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進
- ・豊かな心の育成…豊かな心を育むための地域の教育資源を生かした体験活動や道德教育の実施

【 健 康（体力・保健・食・安全） 】

健康に関する自己管理能力や体力の向上、安全に配慮し行動できる力、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。

- ・安全指導の推進…自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進
- 食育の推進…自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
- 体力の向上…進んで運動し体力を高めるための外遊びの奨励や各種体力検定の実施、体育授業の工夫
- ・たくましさの涵養…心身のたくましさを育むための、学習や生活上の目標達成に向けた努力継続の支援

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 小テスト、まとめテストや授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習の時間の活用や、学年に応じた内容の宿題を通して、基礎的な学力の向上を図る。		
		② 学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。		
		③ 単元を通した学習課題を設定し、ペア学習やグループ学習など、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を工夫しながら問題解決的な学習を仕組んでいく。		
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 保護者アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 特別の教科道德の授業の充実を図るとともに、実践したデータ、資料等は学年ごとに保管、整理し、いつでも活用できるようにする。		
		② 授業外においても、児童の思いやりを認め、褒めていく。また、感謝の気持ちを言葉として表すことのよさを伝えていくことで、思いやりの心を醸成していく。		
		③ 全校一斉の道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。		
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒肯定的回答 80%以上	①「学習の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識付けを図り、自己評価をする。		
		② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、児童指導部会を中心に、全校体制で規範意識を高められるようにする。		
		③「五代の子10の約束」と「五代の子の一日」の提示を工夫し、教職員が足並みを揃えた指導に当たるとともに、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与え、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。		

		④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。 ⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間の連携を図る。 ⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力、家庭・地域との連携を強化するとともに、各種便り、学校ホームページを利用して児童の様子を発信していく。		
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ② 教職員が手本を示し、下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日（年7回）を実施する。 ③ 各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取組を紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。		
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 目標を設定する際には、児童の実態に合った達成できそうな目標を設定するようにし、「できた」という達成感を積み重ねていくようにする。 ② 目標に向けて努力している様子を振り返る時間を設けるとともに、児童が目標に向かって努力している姿や伸びを認める称賛の言葉掛けをする。		
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める		

		③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。		
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できよう努力している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 学級のためになる活動を児童に考えさせるなど、学級活動、係活動の充実を図る。その際、自分の得意なことを生かして自主的・自発的に取り組めるようにする。 ② 道徳の「夢や目標に向かって努力するすばらしさ」（希望と勇気、努力と強い意志）についての学習を継続的に行う。			
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、外国語活動の授業やALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 外国語活動の授業においては、ALT との連携を図り、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定し、コミュニケーションの必要性や楽しさを実感できるような授業を行う。			
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間や社会科、生活科、道徳等で地域や宇都宮市のよさについて具体的に取り上げる。 ② 「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。			
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒肯定的回答 85%以上	① ICT 機器の活用に関する情報交換や ICT 機器を活用した研究授業の実施により、ICT 機器の積極的な活用を図る。 ② 図書室と連携を図った授業の年間指導計画への位置づけや図書ボランティアとの連携による読み聞かせにより、図書の積極的活用を図る。			

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 高齢者や地域の方とふれあう活動の前後に感謝や思いやりの心をもてるよう指導する。 ② 学校行事や特別の教科道徳でも、高齢者との接し方について考えさせ、誰に対しても思いやりの心をもって接することができるようにする。	
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 社会科や理科、道徳、総合的な学習の時間等で、環境問題や持続可能な社会について取り上げ、自分事として考え行動することができるように学年に応じた指導を行う。 ② 環境保全を目的としたエコキャップ回収やクリーン活動、ゴミの分別などの活動を継続して行う。	
B1 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている」 ⇒肯定的回答 90%以上	① アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ② 学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ③ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。 ④ 集会活動の実施方法や形態を工夫し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。	
B2 児童は、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入を心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア（「おはなし会ぼけっ」と「雀宮おはなし会」など）・7学年の職員・委員会児童等による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。	

目 指 す 学 校 の 姿		④ 朝の読書の日は、時間までに本を選び着席して、準備させる。教職員もいっしょに読書をすることで、児童への啓発を図る。		
		⑤ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通したコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。		
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒肯定的回答 95%以上	① 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。 ② 外部機関と連携し、全体で共通理解を図りながら、組織的な対応を行う。 ③ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。		
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒肯定的回答 95%以上 保護者アンケート「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 4月の学級開き、道徳や学級活動、朝や帰りの会の時間を利用し「いじめは絶対に許さない」ということを言い続けることで、いじめを許さないという意識を高める。 ② いじめの早期発見・早期対応のため、5月、10月、12月、2月に「いじめにかんするアンケート」を実施し、面談を行い、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、日頃の教育相談を充実させるとともに、年2回教育相談週間を設定し、児童の不安感等の解消を図る。 ③ 児童主体のいじめゼロ集会を実施することで、いじめについて深く考え、いじめをしない雰囲気醸成する。 ④ 「うつのみやいじめゼロ宣言」を活用し、いじめゼロ運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成するとともに、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間(5月、9月)の取組を掲載する。		
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者アンケート「教職	① 児童一人一人の特徴を生かすことができる係活動を工夫したり、帰りの会等で一人一人の良さを認める場面を設けたりして、一人一人に居がいのある学級経営を行う。		

員は一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている」 ⇒肯定的回答 85%以上	② 欠席した児童への電話連絡や家庭訪問を的確に実施し、家庭との連携を図る。また、児童の頑張りや良さを伝えていくことで、児童、保護者と信頼関係を築いていく。		
A 16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒肯定的回答 95%以上	① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、多様な文化について理解させるとともに、様々な考え方に対する寛容性を養い、受け入れることができるようにする。		
A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。		
	② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。		
	③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。		
	④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。		
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒肯定的回答 95%以上	① 学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」「振り返り」を意識した分かる授業を組み立てる。		
	② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。		

		③ 『『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について』の「分かる授業」チェックリスト（自校化したもの）を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。		
A 19	学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 90%以上	① 些細なことについても教職員の共通理解を図り、目的やそれぞれの役割を考えながら業務に取り組めるように、掲示板や打合せを有効に活用する。 ② PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、業務にあたる。		
A 20	学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを精選する。 ② PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査改善する。		
A 21	学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。（運動会など） ③ 若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。		
A 22	学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、	① 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の特徴や人材を生かした教育活動について内容を精選しながら展開し、地域に対する理解を深め、地域に対する愛着を深めることができるようにする。		

地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒肯定的回答 85%以上	② 依頼内容を明確にした「学習ボランティア依頼書」を作成し、地域コーディネーターを通して募集した地域や保護者の学習ボランティアとの打合せを密に行うことで効果的な学習に結び付けるとともに、ボランティアの方々への感謝の気持ちをもたせるようにする。		
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒肯定的回答 85%以上 地域住民アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒肯定的回答 90%以上	① 家庭や地域、企業等と連携を図り、「出前授業」等で児童の学びにつなげるようにする。 ② 地域協議会委員が、児童の学習の様子を参観する機会を設ける等して児童の実態を知らせる。 ③ 低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。 ④ 学校・家庭・地域間の連絡を密にし、登下校等について話し合うなどして児童の安全確保に努める。		
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 月に1度の安全点検や日常的な点検を実施し、校舎内外の整備や保全に努める。		
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 保護者アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒肯定的回答 80%以上	① 1人1台端末の積極的な利用を中心とした、ICT機器の活用を図る。 ② 地域協議会学習支援ボランティア（図書ボランティア）と連携し、図書室の環境整備を行う。		
B3 学校は、学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒肯定的回答 85%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。		

		③ 「家庭学習強化週間」(年2回)を実施し、計画的な家庭学習の仕方の指導を充実させ、保護者への啓発を図る。		
本校の特色・課題等	B4 教職員は、児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。 【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上	① 各他教科等において、興味関心を持てる内容と絡めたり、学習方法や発表の仕方等を自ら選択できる場を設定したりして、児童が主体的に学習に取り組むことができるように指導を工夫する。		
		② 各教科の関連を図りながら、児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。		
		③ 「話合いの名人になろう」を活用し、自分の考えをまとめ、進んで「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。		
	B5 学校は、道德教育や授業、様々な活動等を通して「心の教育」を推進し、豊かな人間性を育てている。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年:道德や授業、体験活動など)は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上	① 全校一斉の特別の教科道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。		
		② 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。		
		③ 全校一斉の特別の教科道德の授業参観を実施する。		
		④ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。		
		⑤ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。